

オナーズプログラム主催のSummer Lecture in 2013、TNS'13、産学官連携セミナーが閉幕しました

オナーズプログラムでは、7月15日～25日に第2回夏季集中講義（Summer Lecture in 2013 for Nanotechnology/Nanosciences）を筑波大学総合研究棟Bにて、7月26日・27日には第7回つくばナノテク拠点シンポジウム(2013 Tsukuba Nanotechnology Symposium – TNS'13)を産総研つくば西事業所TIA連携棟にて、7月29日には産学官連携セミナー“Economic Impacts of Nanotechnology”を開催しました。今年General Chairをつとめた鈴木博章教授とともに企画・運営を行った都倉康弘教授に話を伺いました。

夏季集中講義は昨年に引き続き、海外有名大学から第一線で活躍している4名の先生方をお招きして、大学院生等を対象に2週間にわたり実施しました。各コースは10回の講義で構成され、修了認定ののち1単位が取得できます。筑波大学（数理解物質科学研究科の学生・教員、学群生等）のほか東京工業大学、東京理科大学、早稲田大学等から91名の参加がありました。講義時間外には、総合研究棟B4階ラウンジや研究室にて、講師の先生方と学生、指導教員、学外研究者の間で有意義な意見交換がされました。

Summer Lecture in 2013 講師・講義タイトル

- Prof. Mathieu Luisier (ETH スイス)
ナノ電子デバイスの量子輸送計算
- Prof. Michael Carpenter (SUNY/Albany 米国)
ナノ物質/材料の分光評価
- Prof. Krishna Saraswat (Stanford Univ. 米国)
最先端LSIデバイス
- Prof. Harry Efstathiadis (SUNY/Albany 米国)
太陽電池と薄膜

集中講義に引き続き、TNS'13を竣工したばかりの産総研西事業所TIA連携棟にて開催しました。シンポジウムは産総研 中鉢良治理事長の挨拶に始まり、スピントロニクス、ナノサイエンス、パワエレ、ナノバイオ、NEMS/MEMS、ナノグリーン、ナノフォトリソの各セッションで、国内外の21名の招待講演



オナーズプログラム運営委員
都倉 康弘教授 (筑波大学数理解物質系)

者により最先端の研究紹介および討論、また、オナーズ学生によるポスターのショートプレゼンション、学生や筑波大-NIMS連係研究者、他大学の研究者によるポスター発表を行いました。今回は特にオナーズ学生のポスター論文から4件のポスターワードが選出され、初日夜のバンケットでの表彰式は大いに盛り上がりました。

7月29日には招待講演者のProf. Laura Schultz (SUNY/Albany)による産学官連携セミナー “Economic Impacts of Nanotechnology (ナノテクノロジーの経済効果)” と題した特別セミナーを開催し、約60名の聴講者を集めて好評のうちに幕を閉じることができました。



Prof. Laura Schultz

これらの企画は、オナーズ学生諸君が世界の第一線の研究者とじかに触れ合う経験により、国際的な感覚を養う事を目的として催されました。準備段階から学内、学外の多くの皆様のご支援を頂きました事を、大変感謝いたします。今後とも継続してこのような企画を実施できる様に努力してまいります。



Prof. Krishna Saraswat



産総研中鉢理事長の挨拶
でTNS'13の幕が開けた。



TNS'13 セッションの様子



TNS'13 ポスターセッションの様子

★夏季集中講義とTNS'13の報告は、つくばナノテク拠点産学独人材育成プログラム（オナーズプログラム）のホームページで詳しく読むことができます。 <http://www.tsukuba-honorspg.jp/>